

私たちの身近な太古の海の恵み

北川博道



秩父のシンボル、石灰岩を採掘している武甲山

現在開催中の「彩発見！ 埼玉の太古の海の恵み展」では、埼玉にあった太古の海の証拠と、その海でできた岩石が私たちの生活にもたらす様々な“恵み”を紹介しています。石灰岩がもたらす恵みを中心に紹介していますが、長瀬にみられる結晶片岩や、中新世に堆積した岩殿沢石など、ほかにも多くの岩石などの恵みを紹介しています。このような岩石は大まかに古生代、中生代、新生代の海でできました。その証拠に、それぞれの時代の海の生き物の化石がその岩石中などからみつかっています。



太古の海の証拠である化石の展示

武甲山などで採掘されている石灰岩は古生代から中生代の海の生物の遺骸などからできているため、その中には当時海に生きていたサンゴやウミユリ、そしてフズリナなどの化石が見つかります。今回の展示の目玉の1つとして、埼玉県内の秩父帯から初めてみつかったアンモナイト化石を展示しています。このような約3億年前に生きていた生物がもたらした石灰岩は私たちの生活に最も身近な地下資源の一つです。武甲山で採掘しているものが石灰岩である事は多くの方が知っている事だと思いますが、その石灰岩がどの様に私たちの生活を支えているかまではなかなかイメージがわかりません。もちろんコンクリートの原料である事は有名ですが、その他にも食品、鉄鋼、農業、環境など様々な分野に利用されており、石灰岩なしでは私たちの生活は成り立たなくなってしまうほどです。この展示では、石灰岩の採掘からその運搬、加工、そして製品までを写真や実物の商品などを用いて紹介しています。実は、私たちの生活のいろいろな所に石灰岩が関わっている事が分かりいただけだと思います。